

# 在宅避難を想定した地区防災計画策定の取組み

平城第二団地（奈良県奈良市）／ 平城第二団地自治会

## 平城第二団地について

### 【団地周辺図】



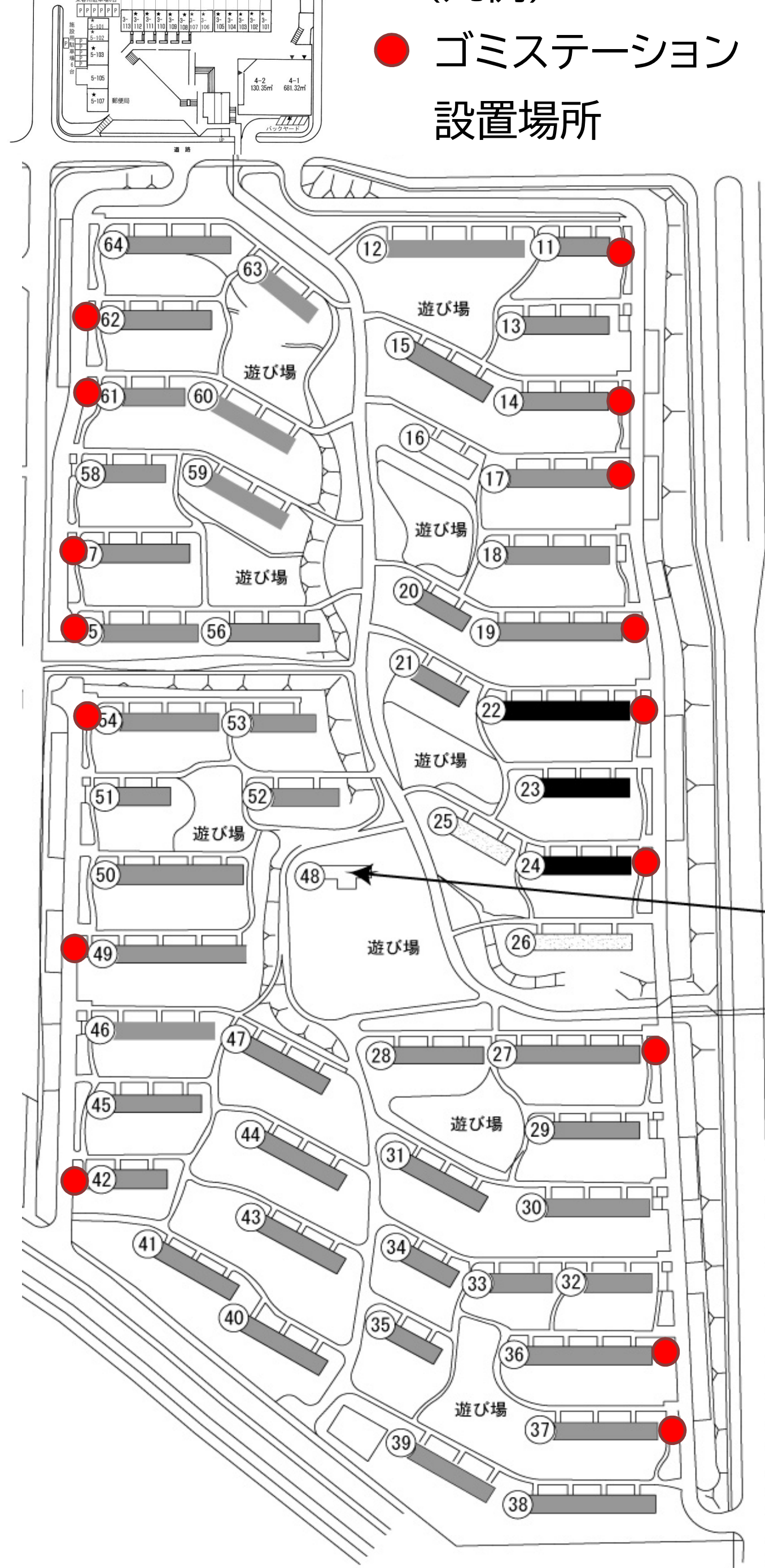
### 【自治会概要】

- 自治会加入数、加入率  
300世帯・19.6%  
(地区防災計画幹事メンバー:7名)
- 地区の65歳以上人口の割合  
39.4%
- 自治会の取組み概要
  - ①住民交流の場  
ワンコイン居酒屋(偶数月)  
夏祭り、敬老の集い、餅つき、とんど
  - ②防災訓練(団地及び地区各1回)
  - ③自治会新聞(隔月)による防災意識啓蒙:コラム「災害時の心構え」



### 【住棟配置図】

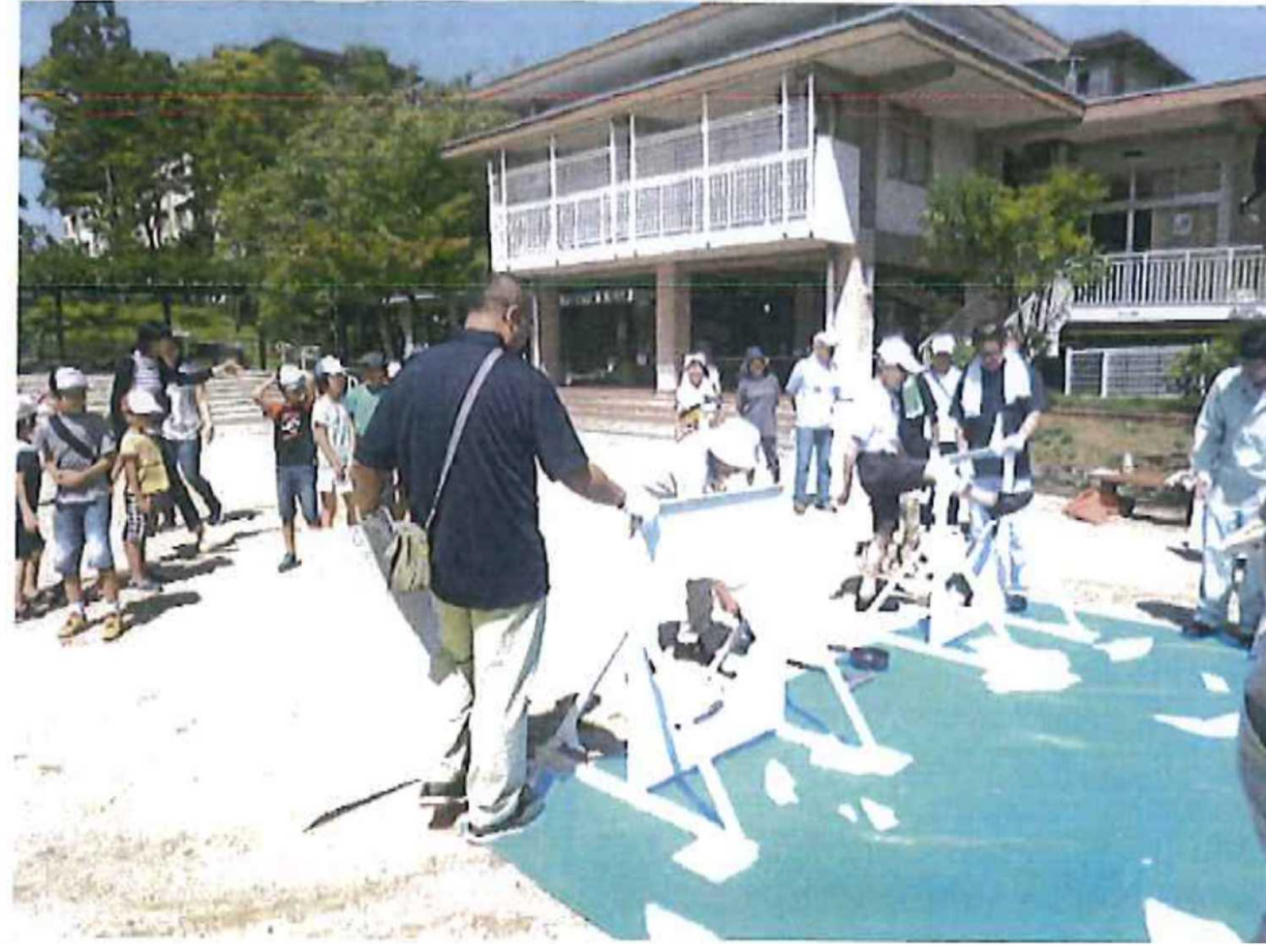
- (凡例)  
● ゴミステーション  
設置場所



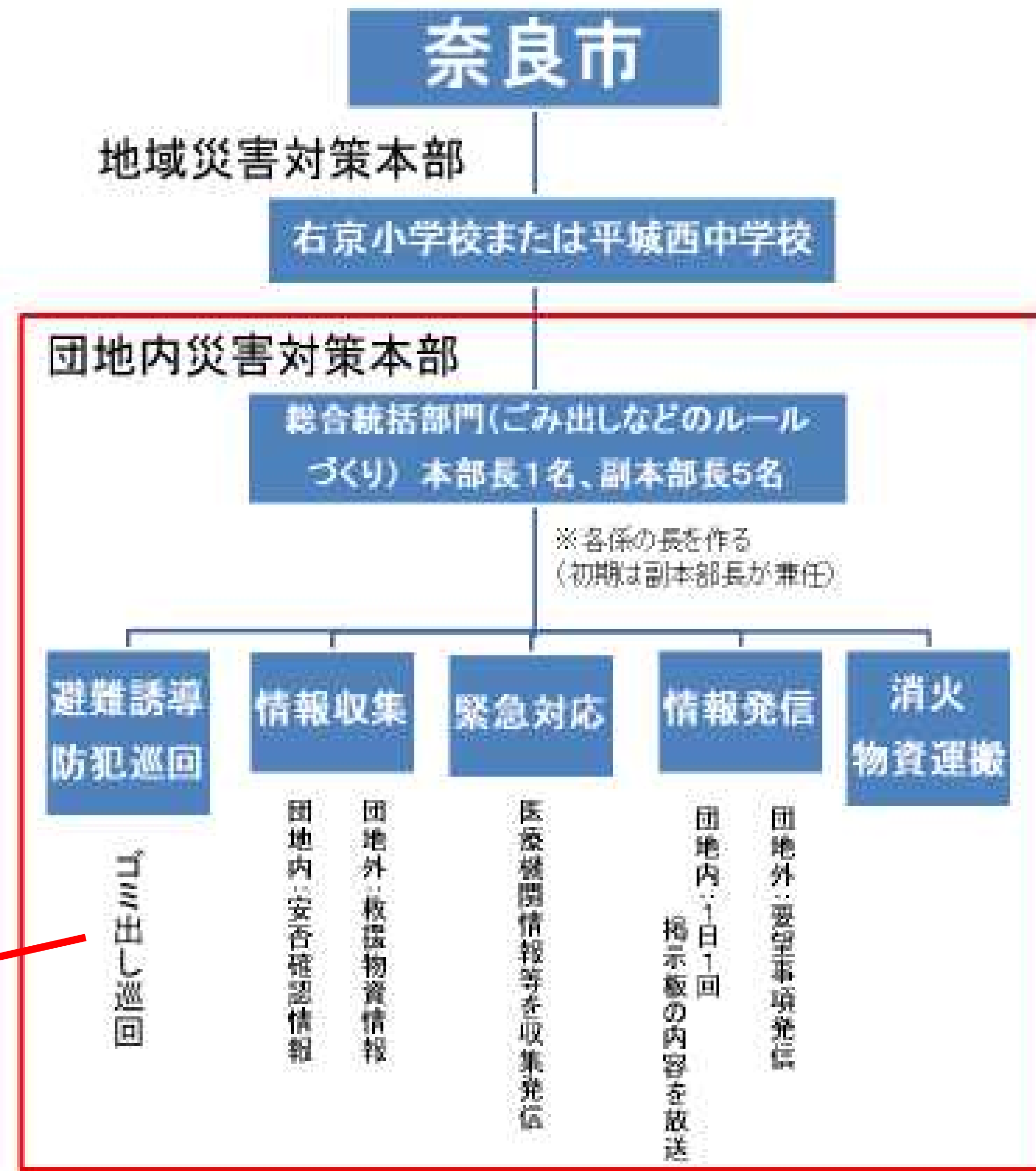
### 【団地概要】

- 所在地  
奈良市右京2丁目1番地の2他
- 交通  
近鉄京都線「高の原」駅から徒歩約9分
- 管理開始  
昭和47年11月～昭和48年1月
- 住宅戸数、構造  
1,529戸、中層5階建(55棟)

防災訓練の一例  
(集会所前広場での隔壁破壊体験)



## 団地内災害対策本部の検討



災害対策本部が機能するためには  
災害時に自治会役員がすべて団地内  
にいるわけではない。  
平時から住民ひとりひとりが、防災に  
ついて考え、災害時には、災害対策本部  
に自主的に参加・協力してもらうための  
土壌づくりが必要。

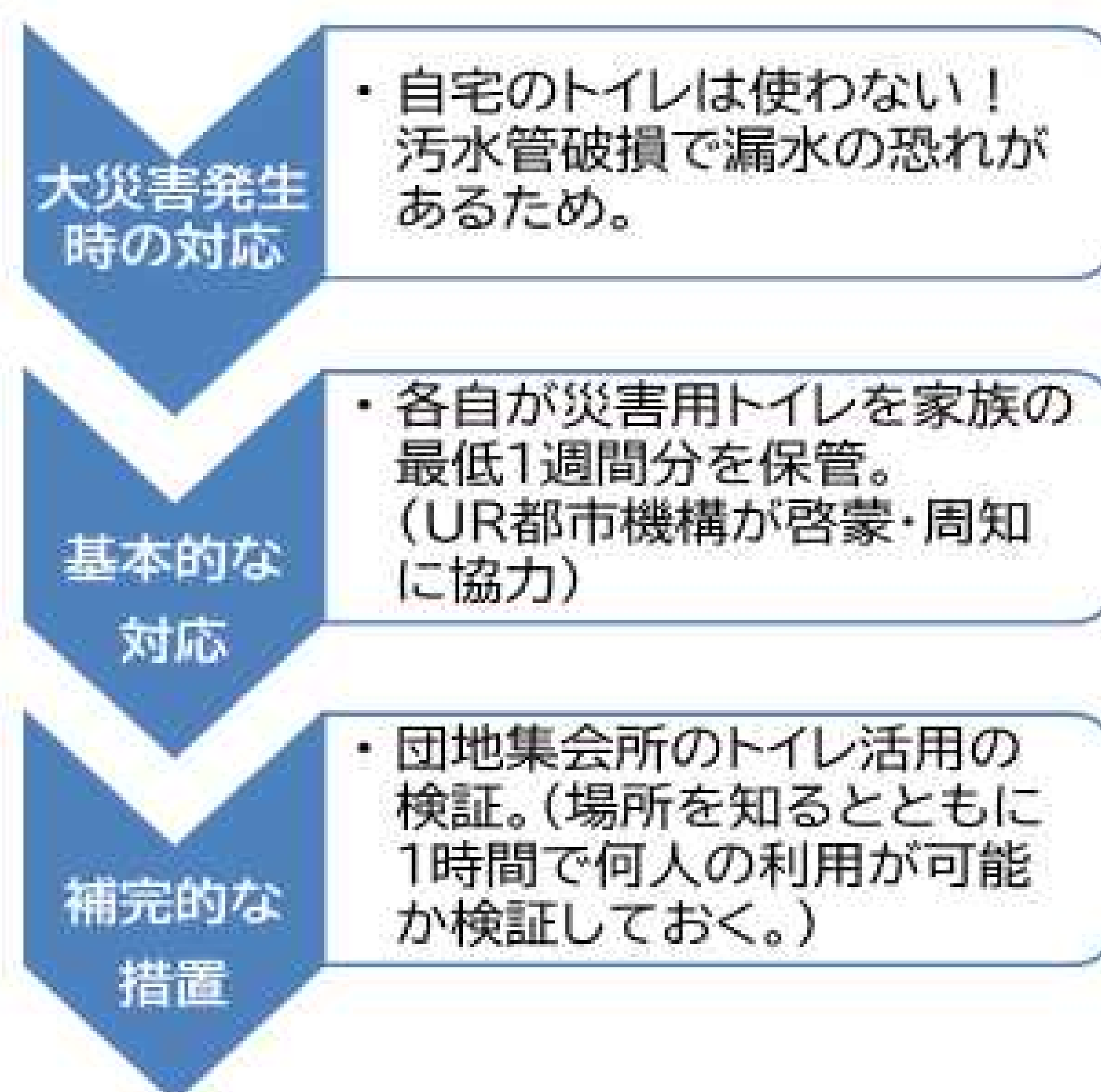
### 【災害時に係る課題】

- ①トイレ
- ②ごみ
- ③水
- ④家具配置

地区防災計画策定を契機にした  
課題解決への「アクションプラン」の  
検討・実行

【平城第二団地の大きなテーマ】  
大災害発生時のトイレ問題を考える。

## 「アクションプラン」大災害発生時のトイレ問題



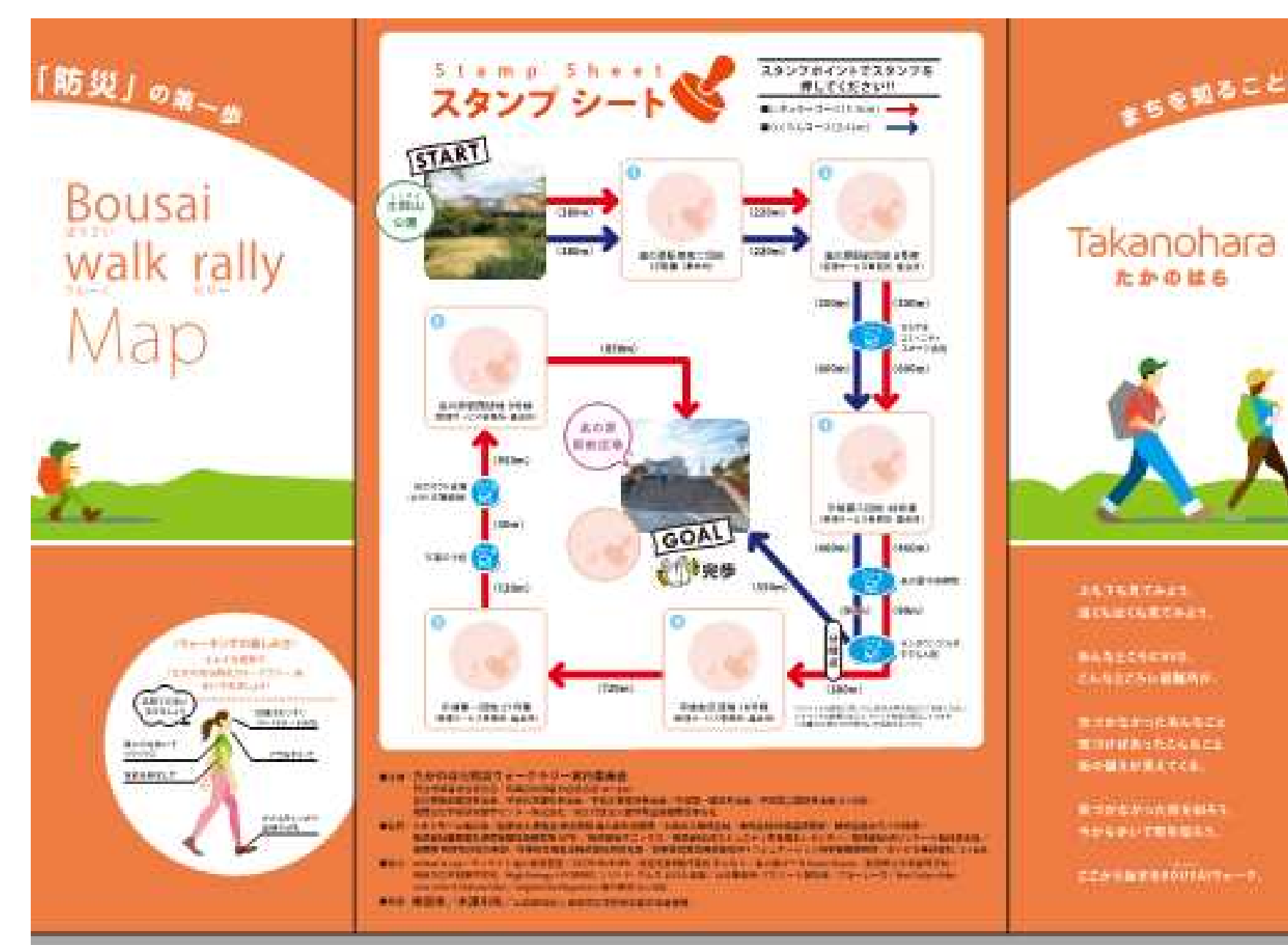
毎年の定例行事「とんど」に  
おいて、発災時のトイレ問題  
を住民に啓蒙(R2.1.13)



## 地域の防災意識向上に係る連携

### ①たかのはら防災ウォークラリーへの協力

11/17に高の原地区で第1回目となる「たかのはら防災ウォークラリー」が、開催されました。南海トラフ地震が高い確率で発生すると予測される現在、奈良県(奈良市)と京都府(木津川市)とにまたがる高の原地区において、府県境をまたいで歩き、避難所やAED設置場所等を確認しながら、スタンプポイントをまわり、体感的、一体的にまちを知ることで、防災意識の向上や地域コミュニティの活性化等を目的として企画されました。平城第二団地内にもウォーキングコースが設置され、スタンプポイントとなった集会所は、24時間使用可能なAEDの設置場所としても紹介されました。  
自治会も、実行委員会の一員として、UR都市機構と連携し、団地内での周知等に協力しました。当日は439名の参加者があり、盛況のうちに終わりました。引き続き地域の防災意識向上のため、協力していきたいと思ひます。



### ②大災害時にネットがなくても使える可搬型ローカル通信システム(LACS)の実証実験への協力

7/28の夏祭り時及び10/6の防災訓練時に、株式会社国際電気通信基礎技術研究所(ATR)の研究「大規模災害時の通信途絶環境下でも使える可搬型ローカル通信システム(LACS)」の実用性に係る実証実験への協力を行いました。  
これは、ATRが、防災・減災に関する国家プロジェクト(内閣府SIP)の研究開発を関西文化学術研究都市(京阪奈丘陵地域)で行っている関係で、同研究都市内にある平城第二団地自治会が研究データ取得に協力したものです。  
実証実験は、参加者のスマートフォンからLACSを体験し、使い心地や感想をアンケートに記入するというもので、自治会も実証実験への協力のアナウンスを行い、多くの方が参加しました。

